

2019 年度国際ユース作文コンテスト

【若者の部】 入選

波及効果

(原文は英語)

エゼアグバ・コレッタ・ウチエ (25 歳)

ナイジェリア・エヌグ市

「あなたが親切であれば、利己的な思惑があるのだろうと、人はあなたを責めるかもしれません。それでも親切でありなさい。日常生活にごくささいな親切な行いを取り入れ、その連鎖反応を見なさい」
マザー・テレサ

子どもの頃、「あなたは親切過ぎるから、その優しい性格に付け込む人々によって傷つけられるだろう」と言われました。ティーンになった私は親切であることを控え、与えるよりも与えられることに懸命になりました。

徐々に自分が以前のような幸せで表情豊かな人間ではなくなっていることに気づきました。何か欠けていたのですが、それが何か分かりませんでした。

銀行に向かう途中のある朝、ある妊婦が私の乗っていたタクシーのヘッドライトに誤ってぶつかり、ライトを粉々に壊してしまいました。その女性はタクシーの運転手に向かって、「なんて乱暴な運転手なの！」と叫びました。周りにいた人たちはタクシー運転手に対して、その女性から修理代を徴収すべきだと言いましたが、その運転手は静かに車から降りて壊れたヘッドライトを確認し、臨月に近い女性に同情のこもった眼差しを向けた後、車に乗って走り去って行きました。女性は驚いた顔で立ち尽くしていました。

銀行に着いた私は、長い行列に並ぶことになりました。2 時間以上にわたって停電が起きていたので、待たされるのにうんざりしてきた客たちは、現金出納係に向かって叫び始めました。そんな中、1 人の女性が、「あなたたち、自分の考えだけで彼らを非難すべきではないわ。彼らはいつも何も問題が起きていない時に私たちに対応してくれている人たちと同じ人たちよ。自分が扱ってほしいように彼らを扱いましょう」と言いました。先ほどタクシーにぶつかった女性でした。

私はそれを見て驚きました。「ヘッドライトの修理費を払うようタクシーの運転手が要求していたら、この女性の態度はどうなっていたら。何という波及効果！」と思ったのです。その瞬間から私の中の優しさの定義は変わりました。優しさとは、自分が扱ってほしいように他者を扱うこと、そして、その人を会った時よりも幸せな状態にして去ることです。なぜなら、その優しさは波及効果のように他の人へと直接的または間接的に伝播していくことが分かっているからです。

その日私が銀行から出てくると、友人が五井平和財団の国際ユース作文コンテストについて教えて

くれました。そしてそのテーマが「優しさがあふれる社会を創る」であると知って大変驚きました。そのための調査を始めたところ、マザー・テレサの次の格言に出会いました。

「誰かが会いに来たら、来た時よりも幸せにして帰しなさい。神の慈愛の表現者となり、その慈愛が表情や眼差し、微笑みに表れるよう努めなさい」

「これだ！」と私は思いました。それから私はどこにいてもこやかであるよう意識するようになり、親切にする方法をさらに調べ続けました。病院を訪問し、病人を励まし、彼らにもっと生きる理由を語りかけました。友だちや家族は私の変化に気づき、私の活動に参加してくれるようになりました。私のコミュニティ内の20人から構成されるグループ「The Kinder Circle（より優しいサークル）」を作りました。私たちは、毎日最低5人（見知らぬ人を含む）に向かって微笑むこと、心のこもった褒め言葉をかけることで最低5人を笑顔にすること、そして毎日最低2人を励ましその話に耳を傾けることに同意しました。この活動はとても大きな波及効果を生み出しており、3ヵ月も経たないうちにメンバーが100人にまで増えました。現在『A Kinder World（より優しい世界）』という本を執筆中で、2019年8月に公表する予定です。私の国以外の人にも働き掛けたいと思っています。この活動を通して、より優しい世界を創ることができると信じています。

つい最近、自分が成長過程で失ってしまった喜びの感情をしっかりと取り戻したことに気づきました。そして、お金や贈り物を贈ることだけが親切にする方法ではないことを学びました。私は波及効果のように、親切な行いを通して自分の周りの世界を変えています。それは誰にでもできることで、一銭もお金はかからないのです。